



【東京外国語大学】キッコーマンとの共同研究 『『おいしい』の言語と文化研究プロジェクト』成果発表会 兼 授賞式を 11 月 13 日（金）に開催

～ブラジル・ナイジェリア・日本・スペインの 4 つの世界から探る
「おいしさ」の言語・文化的特徴～

国立大学法人東京外国語大学（東京都府中市、学長：春名展生）は、キッコーマン株式会社おいしさ未来研究センターとの共同研究『『おいしい』の言語と文化研究プロジェクト』の成果発表会 兼「東京外国語大学キッコーマンおいしさ未来賞」授賞式を、11 月 13 日（金）に本学府中キャンパスにて開催いたします。

本発表会では、本学の博士後期課程学生 4 名が、それぞれの専門である言語学や文化人類学などの視点から、「おいしい」という感覚がどのように言語・文化・社会のなかで表現され、意味づけられているかを発表します。

【開催背景と目的】

本学とキッコーマン株式会社おいしさ未来研究センターは、2026年2月に「おいしさの未来協働研究プログラム」に関する協働研究協定を締結しました。

「おいしさ」は味覚にとどまらず、言語、文化、記憶、身体、社会的経験が重なり合う複合的な概念です。本プロジェクトでは、成分分析やマーケティング等の科学的手法・実践を蓄積してきたキッコーマンと、本学が培ってきた多言語・多文化研究の知（人文学の知）を結びつけ、「『おいしい』という感覚を共有・表現する際の言語・文化的特徴」の多角的な解明を目指してまいりました。このたび、約半年にわたる研究成果を発表するとともに、優れた研究成果を表彰する授賞式を執り行います。

【東京外国語大学における取組の意図・意義】

本学の学際研究共創センター（TReND）を中心に推進される本取り組みには、本学として以下のような意図・意義が込められています。

- 人文学を社会で実践・検証する場としての産学連携

本学では産学連携を単なる技術開発や成果還元の様式化ではなく、「人文学が社会の中でどのように実践され得るのか」を検証する場として位置づけています。

- 「正解」を出すのではなく「共に問いを育てる」協働

企業と大学は、それぞれ異なる視点から「おいしさ」に向き合っています。本プロジェクトが目指すのは、「おいしさの正解」を示すことではなく、対話を重ねて問いを共に育てる関係性の中で、双方の従来の枠組みや思考が揺さぶられ、それまで思いもしなかったことへの関心が生まれ、新たな探究や挑戦につながっていくことです。

- 若手研究者（大学院生）の育成と社会接続

大学院生が自身の専門分野を企業や社会とのつながりの中で捉え直し、研究奨励費や伴走支援を受けながら社会課題や新しい知の創出に挑戦する機会を提供しています。

【次ページへ：開催概要、プログラム、発表題目および発表者】

< 報道の方からの問い合わせ >

東京外国語大学 広報・社会連携課 広報係 TEL 042-330-5857 E-mail koho@tufs.ac.jp



【開催概要】

- イベント名： 共同研究「『おいしい』の言語と文化研究プロジェクト」成果発表会 兼 東京外国語大学キッコーマンおいしさ未来賞 授賞式
- テーマ： 「4 つの世界から、『おいしい』が届く。」
- 日時： 2026 年 11 月 13 日（金）9:00～12:00
- 会場： 東京外国語大学 本部管理棟 大会議室（東京都府中市朝日町 3-11-1）
- 主催： 国立大学法人東京外国語大学 学際研究共創センター（TReND） / キッコーマン株式会社おいしさ未来研究センター
- 対象： 報道関係者、一般、本学学生・教職員
- 参加費：無料

【プログラム(次第)】

1. 開会挨拶
2. 研究発表（1 人あたり発表 15 分・質疑コメント 10 分 × 4 名）
3. 選考
4. 「東京外国語大学キッコーマンおいしさ未来賞」授賞式
5. 講評
6. 閉会挨拶

【発表題目および発表者(敬称略)】

① ブラジル

- 発表者：鈴木 岳志（世界言語社会専攻 博士後期課程 2 年）
- 課題名：「家庭料理」という「おいしさ」：学生の食習慣から考える現代ブラジルの食事のかたち
- 内容：サンパウロ州 UNICAMP（カンピーナス州立大学）周辺でのフィールドワークをもとに、現代ブラジルにおいて「家庭料理（comida caseira）」という概念がどのように食にポジティブな価値や「おいしさ」を与えているかを考察します。

② ナイジェリア（南東部）

- 発表者：IBETO KELECHI EMMANUELA（共同サステイナビリティ専攻 博士後期課程 1 年）
- 課題名：Expressing “Deliciousness” in Igbo: Linguistic Expressions and Cultural Meanings of Positive Food Evaluation
- 内容：ナイジェリア南東部の主要言語であるイボ語話者が、食べ物や食経験を肯定的に評価する際に用いる言語表現や文化的意味、多様な社会的・身体的文脈での表現方法を解明します。

【次ページへ：発表題目および発表者（続き）、お問合せ等】

<報道の方からのお問い合わせ>

東京外国語大学 広報・社会連携課 広報係 TEL 042-330-5857 E-mail koho@tufs.ac.jp



③ 日本

- 研究者：箴島 凌也（国際日本専攻 博士後期課程 1 年）
- 課題名：味における「エモい」とは —「エモい」の意味拡張と広告表現の試み—
- 内容：若者言葉「エモい」が食や味の評価に用いられる可能性に着目し、「エモい味」という表現の受容や、食体験・購入意向評価との関係性を調査から明らかにします。

④ スペイン

- 研究者：堀江 舞柚（世界言語社会専攻 博士後期課程 3 年）
- 課題名：なぜ「おいしい」を使い分けるのか？ —スペイン語の *rico, sabroso, delicioso* から食卓へ—
- 内容：スペイン語で「おいしい」を表す *rico, sabroso, delicioso* の意味と使い分けをレシピコーパス分析や実食調査等からモデル化し、グローバルな「おいしさ」の理解への活用を提案します。

【本件に関するお問い合わせ先】

国立大学法人東京外国語大学 学際研究共創センター（TReND）

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

E-mail：2-trend@tufs.ac.jp

※本取り組みは、JSPS 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）の一環として推進されています。

【取材のお申込み先】

○ 東京外国語大学 広報・社会連携課 広報係 E-mail：koho@tufs.ac.jp

【次ページへ：本発表会・授賞式のフライヤー】

< 報道の方からのお問い合わせ >

東京外国語大学 広報・社会連携課 広報係 TEL 042-330-5857 E-mail koho@tufs.ac.jp



キッコーマンおいしさ未来研究センター×東京外国語大学
「おいしい」の言語と文化研究プロジェクト

成果発表会 兼 東京外国語大学キッコーマンおいしさ未来賞 授賞式

開催概要

日時 11月13日（金）9:00～12:00

会場 東京外国語大学本部管理棟 大会議室

次第

- (1) 開会挨拶
- (2) 研究発表 発表15分・コメント10分 × 4名
- (3) 選考
- (4) 授賞式
- (5) 講評
- (6) 閉会挨拶

4つの世界から、「おいしい」が届く。

①ブラジル

②ナイジェリア南東部

③日本

④スペイン

プロジェクト概要

「おいしい」は、食品を通して届けられます。しかし、人がそれをどう感じるかは、味だけで決まるものではありません。人は、置かれた場所や場面、言葉、慣習、身体や記憶を通して、それぞれに「おいしい」を感じ、語り、意味づけています。

東京外国語大学では、言語学や文化人類学などを通して、そうした違いを、言葉の使われ方や文化的な実践の中から捉えてきました。

今回の共同研究プロジェクトでは、『『おいしい』という感覚を共有・表現する際の言語・文化的特徴』をテーマに、本学の博士後期課程の学生4名が、それぞれ異なる文脈から「おいしい」を研究しました。それぞれの研究がもたらすものは、答えではなく、その場所や場面でしか見えない「おいしい」の輪郭です。



【次ページへ：本発表会・授賞式のフライヤー】

< 報道の方からのお問い合わせ >

東京外国語大学 広報・社会連携課 広報係 TEL 042-330-5857 E-mail koho@tufs.ac.jp



研究発表プログラム（敬称略）

① 鈴木 岳志 SUZUKI Takeshi（D2 世界言語社会専攻）

課題名：「家庭料理」という「おいしさ」：学生の食習慣から考える現代ブラジルの食事のかたち

ブラジルにおいて「家庭料理」とはなにか？

現代のブラジルでは、都市化や生活様式の変化に伴い、従来の食生活をそのまま維持することが難しくなる一方、メディアやレストランなどを通じて、「家庭料理（comida caseira）」のイメージが、食にポジティブな価値を与える概念として広がっている。本研究では、ブラジル各地から学生が集まるサンパウロ州の大学、UNICAMP（カンピーナス州立大学）の学園都市バロン・ジェラウド周辺で行ったフィールドワークをもとに、現代ブラジルにおいて人々が食事に感じる「おいしさ」とは何なのか、「家庭料理」という観点から考察する。

② IBETO KELECHI EMMANUELA（D1 共同サステイナビリティ専攻）

課題名：Expressing “Deliciousness” in Igbo: Linguistic Expressions and Cultural Meanings of Positive Food Evaluation

ナイジェリアの人々は、食べ物のかを「よい」と語るのか。

イボ語は、ナイジェリア南東部を中心に約2,700万人を母語話者とする、同国の主要な現地語の一つである。イボ語話者が食べ物を肯定的に評価する際に用いる言葉や表現、それらの表現にどのような意味を見出しているのか、また、どのような文脈で使われているのかを明らかにする。インタビューを通して、食べ物や食経験のどのような側面が肯定的に評価されるのか、そして、その評価が異なる社会的・文化的・身体的文脈の中でどのように表現されるのかを探る。

③ 箴島 凌也 OSAJIMA Ryoya（D1 国際日本専攻）

課題名：味における「エモい」とは — 「エモい」の意味拡張と広告表現の試み—

味は、「エモい」と言えるのか。

若者言葉「エモい」が、食や味の評価に用いられる可能性に着目する。アンケート調査を通じて、「エモい味」という表現の理解・受容、どのような食や食経験が「エモい」と評価されるか、さらに思い出の有無や「おいしそう」「食べたい」「買いたい」といった評価との関係を明らかにする。

④ 堀江 舞柚 HORIE Mayu（D3 世界言語社会専攻）

課題名：なぜ「おいしい」を使い分けるのか？ — スペイン語の rico, sabroso, delicioso から食卓へ —

同じ「おいしい」なのに、なぜ言葉を選び分けるのか。

スペイン語で「おいしい」を表す rico, sabroso, delicioso の意味と使い分けを、自由連想調査、レシピコーパス分析、実食調査を組み合わせ分析する。スペインのスペイン語母語話者による言語使用を通じて、各語が「おいしさ」のどの側面を捉え、どのように使い分けられるかをモデル化する。さらに、世界に向けた「おいしさ」の発信と、多様な言語・文化における「おいしさ」の理解に、このモデルを活かす方向性を提案する。

いつもは「おいしい」を世界へ届ける側にいるキッコーマン様へ。
今日は世界の側から「おいしい」をお届けしたい。



<報道の方からのお問い合わせ>

東京外国語大学 広報・社会連携課 広報係 TEL 042-330-5857 E-mail koho@tufs.ac.jp